

樋口雄一編・解説

太平洋戦争下朝鮮における戦時労務動員の実態を示す初の基礎資料集。主な収録資料は、労務動員の法的資料、農村の農民移動資料、労働者の基礎調査資料、及び労務資源調査を中心にした総督府の公文書資料である。戦時下朝鮮の歴史解明と強制連行の諸問題解決のための基礎文献として広く活用されることを望むものである。

戦時下 朝鮮人 労務動員 基礎資料集

全五卷

◆本資料集の構成

Iは、資料集全体の解説、国家総動員体制の確立を背景にした昭和十五年の労務需給調整の合理的運用に関する法令（朝鮮職業紹介令実施に就て）、職業紹介事業の実状についての資料（京城職業紹介所々報昭和十五年）、労務動員計画に基づき専業労働者の不足を供給するために朝鮮各道の農村における過剰労力の所在と量を調査した資料（昭和十五年労務資源調査関係資料書類「朝鮮総督府」、一九四〇〜四一年の従業者の移動を抑制するために施行された従業者移動防止令に関する資料（自昭一五年至昭一六年従業者移動防止令関係例規綴「従業者移動防止関係例 昭一六年」朝鮮総督府）を収録。

IIは、従業者移動防止令が廃止され新たに施行された労務調整令に基づき一九四二年各道で実施された労務調整打合会の資料（昭和一七年労務調整令関係例規綴「労務復命書綴昭和一七年」）を中心に、勤労報国隊強化方針（昭和一七年、全羅北道）、一九四一年から始まった海軍軍属の徴用関係資料、国民徴用等労働員違反関係資料（昭和一九年上半期国民徴用等労働事犯取締状況表「他」等を収録。

IIIは、戦時下労働者の供給源であった農村の農民移動資料（農村人口移動調査報告）、「決戦下半島に課せられてゐる勤労働員の重大使命を完遂」するために、徴用という「天皇陛下の為に働くこと」の趣旨を行政の末端にまで「徹底普及」させることを目的として作成された「国民徴用の解説」「抄録」、「朝鮮徴用問答集」「抄録」、さらに国家総力戦に朝鮮民衆をどの様に動員、組織化したかを明らかにする資料（朝鮮の国民総力運動 一九四四年版）を収録。

IVは、戦時下朝鮮人労働力を動員するための労働者の基礎調査資料である。戦時下朝鮮の「各般の労働事情を審かにすると共に賃金統制の計画運用並に戦時下に於ける労務及技術動員計画の基礎資料を蒐集」することを目的としたもので、労働者のみならず、事業主、技術者を対象とした社会事情や技術方面の事情など、労働事情全般に亘る統計調査である。

Vは、朝鮮国内での労働動員及び日本への労務移出のための法的側面を明らかにした資料である。一九四四年一月に慶尚南道労務課（釜山）が「朝鮮ニ於ケル労務関係ノ法令、通牒、照会其ノ他参照ノ必要アルモノヲ蒐集編纂」したもので、末端における労働動員をどの様な法体系の下に実施しようとしたのが本資料で解明できる。

極 秘

第 161 號

昭和十八年六月十日現在

昭和十八年 朝鮮労働技術統計調査結果報告

縮刷版

朝鮮總督府

編者の言葉

樋口雄一 (ひぐち・ゆういち)

太平洋戦争のもとで朝鮮は極めて独自の役割を果たすことになった。それは総督府を中心に強硬に進められた食糧生産と労働者としての大量動員政策であった。すべての朝鮮人民衆が巻き込まれたのである。朝鮮人の労働者としての動員政策は広範に及び朝鮮国内、中国東北部、日本国内あるいは南方に大量に動員された。例えば、日本国内の主要燃料であった石炭生産、鉄鋼生産、飛行場の建設工事などは朝鮮人労働者の存在無くして考えられないような比重を占めているのである。これら朝鮮人の動員については、一部が強制連行された記録が資料として纏められているけれども肝心の朝鮮内に於ける動員のシステムや労働者・農民の状況については全くといってよいほど研究や資料が存在しない。動員・連行された人々の朝鮮での暮らしの実体と状況が判っていないのである。なぜ、朝鮮人を強制という側面が存在したといえども、かくも大量に動員できたのかという疑問が解明できないのである。この解明には残されている資料に基づいて科学的に事実を明らかにしなければならない。しかし、基礎資料は総督府が関係資料を焼却したり、道・邑・面の行政組織では廃棄されたりして存在しない。そこで残されている資料から入手しにくい基礎資料を中心に労働者としての動員解明に役立てられるように関係資料を編纂した。資料は動員の法的な側面を明らかにする資料、労働者の供給源であった農村の農民移動資料、労働者の基礎調査資料、及び労務資源調査を中心とした総督府の公文書資料などである。

特に総督府の公文書資料は海野福寿先生の教示によって収録することが出来た。なお、基礎資料の一つである朝鮮労務協会の機関誌『朝鮮労務』はこの資料集と同じ緑蔭書房から刊行されている。これら資料が戦時下朝鮮の歴史解明に役立つと同時に朝鮮人労働者移動・連行の

第Ⅱ巻に収録

朝鮮の 國民總力運動

附日本婦人會朝鮮本部概況

昭和十九年三月

朝鮮總督府

第Ⅱ巻に収録

朝鮮總督府勞務課監修

國民徵用の解説

疑問に答へて一問一答式に

附 國民徵用に関する法規

國民總力朝鮮聯盟

◆推薦します

朝鮮人戦時勞務動員の実態の 実証的資料

山田昭次 (やまだ・しよじ)

かつては朝鮮人強制連行というと、朝鮮人の身体を拘束した暴力的連行のみが想像されがちだった。アジア・太平洋戦争の末期に向かつてそうした形態の連行が増加の一途をたどったことは否定しようとは思わない。しかしそれがすべてだと見るのは、かえって植民地支配の真の苛酷さを見落とすことになりかねない。一九三九年の早魃の時期には戦時勞務動員に窮迫のために応募した朝鮮人は多かつたし、その後も厳しい収奪による貧困や支配の圧力のために、外見的には戦時勞務動員にすすんで応募する朝鮮人がなくなつたのではない。つまり、植民地支配自体が強制装置として働いたのである。

樋口雄一氏は『戦時下朝鮮の農民生活誌 一九三九年—一九四五』(社会評論社、一九九八年)で、戦時下朝鮮農民の生活の実態の克明な復元を通じてこの点を明らかにした。今回樋口氏がこの研究の過程で収集した基礎資料が刊行されることになった。この資料集により、朝鮮人戦時勞務動員の実態がより実証的に明らかにされ、現在進行している戦後補償訴訟にも寄与することを期待する。

資料

農村人口移動調査報告

朝鮮總督官房調査課

一、ま、へがき

本報告は、次の調査要綱に依り昭和十九年二月中旬より三月下旬にかけて實施した全鮮六箇村落の實態調査に関する結果である。

本調査結果の眼目とする處は、第一に、轉近に於ける農村人口の社會的動感即ち移動現象を具に觀察し、第二に、その影響に依る農村人口の組成即ち人口構成を明かにし、第三に、勞務結核の觀點から農業勞働力の變貌を判別して以て現下喫緊なる農村対策に關する具體的な基礎資料を提供せんとするにある。

從來朝鮮に於てこの種調査の見るべきものが殆どなく、爲に農村構成の實質的性格に關しては常にその觀察の重要性を痛感して居りながら、結局その實態を正確に把み得なかつた憾みなしとしない。

茲に敢て一先づ之を公表し、朝鮮に於ける農村動感の一斑を知る爲の參考資料たらしめんとする次第である。

尚、結果内容の説明に就ては後日要分補足する心算である。

第Ⅴ巻に収録

第九章 朝鮮總督府勞働者斡旋要綱

一九 工場事業場技能者養成計畫認可申請ニ關スル件	二五一
第一 總 則	二六一
第二 申込手續	二六一
第三 雇傭條件	二六三
第四 取遣、輸送及移動	二六六
第五 雜 則	二六七
朝鮮總督府勞働者斡旋要綱ニ細則	
第一 總 則	二七一
第二 勞務需給調整計畫ノ樹立	二七一
第三 斡旋申込書ノ處理	二七二
第四 雇傭條件ノ規則	二七二
第五 勞務者ノ割當及供出	二七三
第六 班長ノ選定	二七四
第七 勞働者ノ輸送	二七六
第八 就勞上ノ措置	二八二
朝鮮總督府勞働者斡旋要綱並ニ同細則	
一 勞務動員實施計畫ニ依ル朝鮮人勞務者ノ内地移入斡旋要綱	二九七
二 勞務動員實施計畫ニ對スル朝鮮人勞務給者ノ内地移入ニ關スル件	三一一
三 重要工場礦山勞務者ノ充足方法ニ關スル件	三二七

◆推薦します

戦争末期朝鮮における植民地収奪の全体像把握に必須の資料

海野福寿 (うんの・ふくじゅ)

樋口雄一編『戦時下朝鮮人労務動員基礎資料』全五巻が刊行されることになった。一昨年『戦時下朝鮮の農民生活誌』(社会評論社)を出版した編者の樋口氏は、その本の「はじめに」で、強制連行された朝鮮人を「生み出した農村と、そこにおける朝鮮人の暮らしほどの様なものであったのか」と問い掛けた。

朝鮮人強制連行の調査・研究が、連行や労働の実態分析を中心に行われてきたことは周知のとおりであり、その重要性を否定するものではないが、さらに進んで朝鮮人労務者が生まれ育った、当時の朝鮮農村の農業生産や農民生活がどうであったか、という点になると研究は極めて少なく、樋口氏が初めてそれに挑戦したのだった。

今回刊行の資料集に収められた資料の多くは、樋口氏が研究調査過程で収集されたもので、主として強制連行を行った行政側の資料である。それらは現在、日本国内の図書館等における所蔵はまれで、樋口氏が韓国の図書館・韓国政府記録保存所(公文書館)などを尋ね歩き採集された、希少価値の高い研究資料である。

樋口氏はそれらを公開し、研究者の共同利用の便を図ってくれた。私たちにも、朝鮮人強制連行の根っこに鍬を入れる機会が与えられたのである。これによって、戦争末期の朝鮮における植民地収奪の全体像把握に一步近づくことができよう。本書の刊行を、日韓の歴史研究者、市民とともに喜びたい。

第1巻に収録

昭和十五年十二月

京城職業紹介所々報(特輯號)

京城職業紹介所

労務調整事務打合會状況

一 期 日	昭和十七年四月六日
二 會 場	全羅北道庁會議室
三 出席者	各府邸内務課長及労務事務担任者 各警察署司法主任 全州職業紹介所長 知事以下道閣僚官 本府大官局
四 打合會状況	
(一) 開會挨拶	村上社會課長
(二) 國民儀禮	八木府合團
(三) 知事訓示	金村知事
(四) 内務部長挨拶	浅原内務部長

第2巻に収録

編纂・解説

樋口雄一（朝鮮近現代史研究者）

戦時下

朝鮮人労務動員

基礎資料集

全五巻

推薦

海野福寿（明治大学教授）

山田昭次（立教大学名誉教授）

体裁

編集復刻版／A5判上製・クロス装・ケース入り

▼解説は第一巻に所収しております

揃定価「本体90,000円＋税」（分売不可）

ISBN4-89774-245-5 C3022

◆平成12年7月下旬一括刊行

関連図書

【新刊……平成12年4月刊】

朝鮮労務

昭和16年、朝鮮総督府の労務対策協力団体として設立した「朝鮮労務協会」の幻の機関誌。戦時下朝鮮の労働力動員政策の推進に大きな役割を担った貴重な史料。待望の復刻である。

■庵道由香編・解説 全4巻・別冊1 本体66,000円

戦時下朝鮮人中国人

連合軍俘虜強制連行資料集

石炭統制会極秘文書 強制連行による全国の主要炭鉱（樺太を含む）の詳細な労務統計と労務管理の実態を示す極秘内部資料を体系的に収録、編纂した。

■長澤秀編・解説 全4巻 本体80,000円

戦時下強制連行

極秘資料集 [東日本篇]

石炭産業内部文書 労務管理・統制の実態と敗戦後の朝鮮人の動向、帰朝状況を当事者の綴る克明な記録、内部文書によって初めて明らかにする。

■長澤秀編・解説 全4巻 本体80,000円

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

〈下記の書店にお申込み下さい〉

2000.7.上.5